

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1〜20は音読み、21〜30は訓読みである。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(40)
19、20は国字で答えること。

(三) 次の1〜5の意味を的確に表す語を、後の□から選び、漢字で記せ。(10)
2×5

- 1 儉安の夢を惕っていた。
2 鑰匙は監獄官吏が保管する。
3 要件の欠缺により請求を棄却する。
4 頭頂の肉髻が三十二相の一を表す。
5 清涼殿の庭に乞巧奠の香の匂いが漂う。
6 草莽の臣として国難打開に挺身した。
7 老臣扈遊して漸く東帰せり。
8 寒山の霜葉紅きこと魚鰾の如し。
9 歎歎の声を上ぐること数遍す。
10 姪虐を極め姐己も斯くやと思わせた。
11 賊衆乱れ、山を棄てて下り丐命す。
12 偏偏として喪家の狗の如し。
13 神霊を動かし百年の淤淀澄清と為る。
14 恰も獺多くして魚擾るが如きなり。
15 弦を控えて風塵を颯望す。
16 夫差乃ち幌を為り面を冒いて死せり。
17 半生歓娛無きも初め湮陲と為さず。
18 首楞嚴三昧を得て自在に衆生を済度す。
19 既にして方広東被し教肆南移す。
20 棲遲薛越を忘ること勿れ。
21 老軀を挈げて軍の庭に赴く。
22 昼夜の別なく不安が吾人を嘖んだ。
23 險を憑んで守を作す。
24 私を以て己を累わさず大体を全うす。
25 褒美に青緡一筋を下賜された。
26 官爵を鬻いで国庫を補填する。
27 恋の重荷に妨なきこそわびしかりけれ。
28 宜宜しき所の前裁にはいとよし。
29 土敞るれば則ち草木長ぜず。
30 親ら琵琶を鼓し以て飲を侑む。

- 1 コンシンの力を振り絞って応戦した。
2 野山に緑弥増すコクウの候となった。
3 近来シンキ亢進に悩まされている。
4 肝腎要の点をボカして返答する。
5 ホウロウ引きの小鍋にミルクを沸かす。
6 病気にシャコウして会合に出ない。
7 初詣のおサイセンをうんと弾む。
8 シャバケの抜けない坊さんであった。
9 餅のかびをコンイで落とす。
10 あの人はキット無事に帰って来るよ。
11 耳をツンザク悲鳴が夜の静寂を破った。
12 亡骸を掻き抱いてサンサンと落涙した。
13 全社員に嚴重なカンコウレイを布く。
14 政財界の癒着をテツケツする。
15 祖先のサイシを肅然と執り行う。
16 帝王の公印のギヨジが印されてある。
17 深く夫を敬いセイビの礼を尽くした。
18 家名を一層高めセイビを称えられた。
19 タスキを掛けて御前仕合に臨む。
20 後の事はシカと頼んだぞ。

- 1 おかと谷。転じて隠者の住む別天地。
2 詩文の才に富むこと。またその人。
3 仲買人。また盗品の売買の仲介。
4 貴族の社会。
5 貰った手紙を繰り返し読むこと。
かちゅうかい・がほ・かりゅうかい
きゅうがく・けいふく・しゅうちよう
らせつ・りえん

(四) 次の問1と問2の四字熟語について
答えよ。(30)

問1
次の四字熟語の(1〜10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20)
2×10

- (1) 潰堤 落英 (6)
(2) 待旦 玉兔 (7)
(3) 折衝 博文 (8)
(4) 巳巳 鬱肉 (9)
(5) 齒肥 管窺 (10)

いこ・ぎんせん・じりよう
そんな・ちんか・ひんぷん
やくれい・れいそく・ろうぎ
ろうほ

問2
次の1〜5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10)
2×5

- 1 災いを未然に防ぐ。
2 人為の愚かしさを言う。
3 命懸けの求道。
4 悪平等の待遇を言う。
5 文章が悠揚迫らざる風格を有する。
咫尺万里・慧可断臂・断鹤续鳧
曲突徙薪・牛溲馬勃・牛驥同皁
蒼蠅驥尾・麤枝大葉

1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

(五) 次の熟字訓・当て字の読みを記せ。

- 1 稲架
- 2 花魁
- 3 矮鶏
- 4 波斯
- 5 仏掌薯
- 6 水蚤
- 7 障泥
- 8 小筒
- 9 水綿
- 10 金剛纂

(10)

(七) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を

後の□の中から選び、漢字で記せ。

(20)

(八) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分

(20)

を漢字で記せ。

(六) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがなに注意して)ひらがなで記せ。

〈例〉健勝……勝れる ↓ けんしょう / すぐ

- ア 1 擣礎……………2 擣つ
- イ 3 韞玉……………4 韞む
- ウ 5 仍重……………6 仍に
- エ 7 嗶声……………8 嗶れる
- オ 9 拉朽……………10 拉く

- | | |
|------|-------|
| 1 夜寐 | 6 双魚 |
| 2 耄耄 | 7 鳥目 |
| 3 驥足 | 8 点竄 |
| 4 磽薄 | 9 示現 |
| 5 潔淨 | 10 佳配 |

対義語

類義語

ががん・かくしゃく・がんばん
くえ・こうきゆう・こうゆ
しおう・しんき・どけん
ようごう

- 1 ケンパク同異の弁。
- 2 退つ引きさせぬクギカスガイ。
- 3 山に躓かずしてテツに躓く。
- 4 セキリンの味を嘗めて会稽の恥を雪ぐ。
- 5 シュウレンの臣あらんよりは寧ろ盗臣あれ。
- 6 猛虎の猶予するは蜂蠆のセキを致すに若かず。
- 7 山を遠ること十里ケイコの声猶耳に在り。
- 8 君子はサンタンを避く。
- 9 食つて愛せざるは之をシコウするなり。
- 10 生は奇なり死はキなり。

(九) 文章中の傍線(1～10)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(30)

2×10
1×10

A 仰いで蒼穹を觀れば、無数のセイシユク紛糾して我が頭¹にあり。鮮美透涼なる彼に対して、撓み易く折れ易き我如何に赧然たるべきぞ。聖にして熱ある悲慨、我が心頭に入れり。罵者の声耳辺にあるが如し、我が為すなきと、我が言うなきと、我が行くなきとを責む。われ起つて茅舎を出で、且つ仰ぎ且つ俯して罵者に答うるところあらんと欲す。胸中の苦悶未だ全く解けず、行く行く秋草の深き所に到れば、忽ち聴く虫声縷の如く耳朶を穿つを。之を聴いて我が心は一転せり、再び之を聴いて悶心更に明らかなり。曩に苦悶と思ひしは苦悶にあらざりけり。看よ、シヨクシヨクとして秋を悲しむが如きもの、彼に於いて何の悲しみかあらん。彼を悲しむと看取せんか、我も亦悲しめるなり。彼を吟哦すと思わんか、我も亦吟哦してあるなり。心境一転すれば彼も無く、我も無し、邈焉たる²大空の百千の提灯を掲げ出せるあるのみ。手³コマネきて蒼穹を察すれば、我「我」を遺れて、飄然として、檻樓の如き「時」を脱するに似たり。

(北村透谷「一夕観」より)

B 如何にせば仏教現代の衰を起こして往時の盛に回らすを得べきや。論者は多く曰うに、仏者の弊は出世間的にして世間的ならざるに在り、退守的にして進取的ならざるに在り。今の計を為すもの、社会事業を興起し海外布教を恢張するに若くは莫しと。然れども、是等はもと利他濟世の事業にして、其の由つて出ずる所を繹ぬれば、自行既に満足し、其のヨレキ溢れて此に至るものたらざる可からず。今日の教界、何れの処か弊無からん。本山は本山の大職を棄てて妄りに世俗の権勢を徹め、門末は門末の本務を忘れて恣に不義の福利を貪り、僧侶滔々、空海師の「所謂頭を剃りて欲を剃らず、衣を染めて心を染めざる者」にあらざるはなし。自行すでに荒廢し、一心未だ安立せず、焉んぞ能く利他の業を成ずるを得んや。乃ち其の為す所、悉く偽飾に出でて法を売り教えを瀆し、世にネイし人に媚び、鄙野シウロウ習うて以て常と為し、復一毫、慙愧の心を生ずるなし。

(清沢満之「教界回転の枢軸」より)

C 平家都を落ちゆくに、六波羅、池殿、小松殿、西八条に火をかけたれば、黒煙り天に満ちて、日の光も見えざりけり。あるいは聖主リンコウの地なり、鳳闕空しくいしずえをのこし、變輿ただあとをとどむ。あるいは后妃遊宴のみぎりなり、椒房の嵐の音かなしむ、エキテイの露の色うれう。藻屑繡帳の基なり、弋林チウシヨの館、槐棘の座、鴛鴦のすまい、多日の経営を辞して、片時のカイジンとなれり。

(「平家物語」より)

氏名